

SALVADOR

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会報

共同代表：松本敏之、大倉一郎
 事務局：横浜港南台教会 中沢 謙
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29
 Tel. 045-833-5323 Fax. 045-833-6616
 郵便振替口座番号：00210 - 2 - 97571

コロナ禍を生き延びています

小井沼眞樹子

小さな者を覚えて、多くの皆さんがお祈りと尊い献金を捧げてくださることを心から感謝しています。

お蔭様で4月半ばには2回目のワクチン接種が済んで、ブラジルのコロナ死者総数が50万人を超えるなか、いのちが守られ健康を与えられて生活しています。とはいえ、長引くコロナ禍のもとで、ひとり寡黙な自粛生活を続けるのもホトホトうんざり、頭にどんより雲がかぶさっているようで(いまサルバドールは雨季なのです)うつうつとした気持ちを拭えません。そして、大統領の悪態ぶりや政治家たちの腐敗、貧しい民衆の深刻な窮状、それらの事情を言語の壁でよく把握できないもどかしさもストレスを加える要因になっています。

このように辛い気持ちを初めに正直に吐き出すと、自然にプラス思考が湧いてくるのはいのちの法則でしょうか、有難いことです。



コロナ死者 50 万人を追悼する集会。ボンフィン教会前の「聖なる丘」にて。(ボンフィン=よき終わり)



☆懺悔の日々

長い孤独な生活のなかで、自然に遠い昔からの出来事を思い出す時間を多く与えられています。子ども時代や学生時代から今日に至るまでの自分のいろいろな過ちや失敗、人間関係の破れ、無自覚のうちにひとを傷つけていたこと等々が浮かんで来て、何て自分はひどい人間だったかと、懺悔の思いに浸ることしばしば。優しかった亡夫の写真の前で「ごめんね、クニミツさん」とつぶやくのも毎度のこと。



そのようにして、自分の有り様に奥深く潜んでいた欠陥をしかと見つめ直すことは、決して快いことではないけれども、私にとって、いま、必要なことなのだろうと受け止めています。そして、

イエスさまの十字架と復活によって示された神の愛、「私を生きてよい」という生の是認を繰り返し受け取って、「再起動」しています。

☆嬉しい交わりの再開

5月初旬に免疫が確定しましたので、ホッとして外出するのが少し楽になりました。そんな折、「この住人も全員ワクチンを終了したので来てください」と声がかかり、トリンダージ共同体での昼食準備の奉仕に一年半ぶりに復帰しました。

その共同体は、もとホームレスだった人々が古い教会堂を借りて共同生活をしている場所で、5年前から週に一度ボランティアとして関わりを続けてきました。シンプルな人たちの優しい、温かい心に触れて、何よりも心安らぐ場所です。その交わりのなかで、ときどき聖書の言葉がストンと心に落ちる体験を与えられるのです。



↑密を避けるため、広い会堂で食事をするようになっていました。

→目が不自由で認知症のDさんをいつもJシスターが介助しています。



☆ヴァレリオ・シルバ合同長老教会の近況

ヴァレリオ教会は相変わらず週に一度 SNS のビデオ通話で祈祷会を持つ以外は、活動ができない状態です。ですが、ペーシリオ牧師が教会員やその家族の誕生日を祝う動画を作成するようになり、そこに私たちがメッセージや写真を加えて素敵な動画ができ上がります。誕生日をみんなで熱く祝う文化がブラジルにはあり、この動画配信は離れている各人を結びつける一助になっています。

コロナ感染の拡大が続くなか、5月にはとうとう教会員の一夫妻が感染し夫は入院、妻は自宅療養、幼い子供二人は祖父母に預けられてしばらくとても大変な日々が続きました。皆で心を合わせて祈り、幸いなことに重症化せずに早めに退院でき、子どもたちには感染せずに済んでホッとしました。

6月には、国際的な慈善団体ワールドビジョンから基本食糧品のパック(セスタ・バージカ)が50包近隣教会へ寄付されたのを、半分おすそ分けで25包頂きました。ヴァレリオ教会に関わりのある貧困家庭に届けて喜ばれました。



☆会堂建築の現状と任期のことなど

皆さんから篤いお祈りとご支援を頂いている新会堂建設工事は、3月までに一応完了しました。

昨年末に資金が底をついていたので、完了まであと少しの資金を、トーマス基金(注:亡夫が遺してくれた宣教資金)から**80.500レアイス(約 180万円)**を立て替えました。

あとは、内部の備品を購入、設置すれば礼拝を始められるところまでこぎつけたのですが、コロナ禍で先に進むことができずに3ヶ月経ちました。その間、牧師や教会員のワクチン接種が次々に済んだので、資金さえ届けば行動開始となります。

7月には、昨年と同様に息子を介して、日本の口座に入金された献金や寄付を外国送金することを考えています。去年はブラジルサイドで換金に大変苦勞しましたが、今年は前例がありますから多分大きな問題はないでしょうと、楽観視しています。



↑新会堂、壁面に教会名を書く予定。→リフォーム予定の旧会堂

新会堂が完了しました後には、旧会堂のリフォーム工事が残されています。青少年の教育活動、地域の人々への生活支援の場となるコミュニティセンターとして活用するためです。

このリフォーム工事の見積もりはまだ上がってきません。このところ、ブラジルのインフレが高まり算段が難しいことも一理ありますが、迅速に事が進まない現実に、忍耐しながら待っています。

先日、このリフォームのためにある旧友が思いがけず多額の寄付を送ってくださり、大感謝！
「小さな群れよ、恐れるな、あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」ルカ福音書 12 章32節

コロナ禍のせいで、日本でも様々に困窮する人々が増え、その支援活動も活発化しています。そういう状況下ですので、皆さまへの会堂献金のお願いはこれで終わりたいと思います。本当にこれまで多くの方々から頂いた多大なご支援をありがとうございました。かならずや豊かな実りをもたらす結果を見ることになるでしょう。神の国の「からし種のたとえ」を証しすることができますように、ヴァレリオ教会の皆で心を合わせて祈っています。

これらのリフォーム工事を残る半年間に完了できれば、私のサルバドールでの宣教目標が達成しますので、契約通りに2021年末をもって任期を終了いたします。コロナ禍の状況を見ながら、一旦帰国してサルバドール宣教報告会を開きたいと思っています。

その後の身の振り方については、教団委員会の先生方とも相談していますが、私の願いは、健康が許す限り、サンパウロに戻って日系高齢者の方々とは日本語による信仰の交わりの中で奉仕することです。しかしながら、教団派遣の宣教師を引退する方向に気持ちが向かっています。最終的には、私の願いではなく神さまのみ心が成りますようにと祈っていきたくと思います。

また、ブラジルの貧しい人々の間で奉仕する新しい宣教師が起こされますよう、どうぞお祈りください。

☆テクノロジーの恩恵によって

ある日、日本の妹から連絡があり、池袋朝禱会が東京の緊急事態宣言のためにしばらくの間 zoom で集会をするようになったので、ブラジルにいる私に奨励をお願いしたいということでした。朝禱会は私の祖父が創設し、その後全国組織へと発展、今年60周年を祝ったエキキュメンカルな祈禱会です。「祈りの人」だった祖父の信仰を思い起こす良い機会とも受け止めて、感謝して引き受けました。

テクノロジーの恩恵で遠方の多様な教会から人々が参加して祈りを共にしました。ブラジルは自然も人間も、被造物すべてが呻き、民衆は苦境や飢えにさらされている大地であることを紹介。コロナ禍で何も仕事がなく孤立生活の中、路上で出会う隣人に少しのお弁当を手渡すことで具体的な関りが生まれ、それが孤独な生活を支える心棒になっていること、また、コロナ禍はイエスさまの愛に根差した方向転換をすべきチャンスと捉えるべきと話しました。

その場に、クリスチャン新聞の記者が参加しておられ、すぐ後日、同新聞への寄稿を依頼されたのです。何度か繰り返し書いてきたことをまとめた拙稿が、クリスチャン新聞6月6日付に掲載されました。文字が小さく読みづらいと思いますが、ご笑覧いただければ幸いです。

いのちの共同体に方向転換すべき時

コロナ禍のブラジルから

寄稿：小井沼眞樹子 日本基督教団宣教師
ブラジル・サルバドール在住

ブラジルは今、新型コロナウイルス(以下コロナ)が急速に拡大しています。今や州境に閉じ込められ、先住民の感染が拡大し、4月には全国で1日の死者数が4千人を超える日もありました。人命を軽視し、経済政策を優先してきた現大統領の責任を問う諮問委員会が現在進行中です。

しかし、コロナ発生以前から問題がありました。世界が驚愕するアマゾンの森林火災は、地球温暖化による自然発火ではなく、農地拡大を目的とした大規模農産物の着火によるものです。また、先住民保護地は憲法で守られているのに、大統領が違法な経済開発政策を押し進め、不法侵入者によって森の番人である先住民のリーダーが非道に殺害されています。ウイルスは多様な人間に平等に襲ってくるのではなく、実際は感染以前から社会的な不平等、差別、周縁化が感染と悪化状況や医療現場に現れるのです。さて、こうした社会状況の下、ブラジルのキリスト教会は二分されています。聖書の言葉や聖書を以て民衆を生活苦から救い出すように努め、実際は神の名を使って「搾取する」ネオオメガコスタル教会が一方にはあります。エキュメニズムを拒絶し、現政府に「牧師」まで送り込んでいる彼ら

は、実際、私たちが困惑させ、多くの難問を突き付けています。カトリック教会も分断し、教団ブラジンスコに反旗を翻す頑固な保守派がいます。地方、カトリック教会の全国司教会議が主導する教会とプロテスタント教会の進歩派(少数派)は連携し活動していません。現在は社会的孤立のなかでも「ブラジリアン」による宗教ですが、イエスの福音を正しく説き明かし、先の見えぬ暗闇の中でいのちの光を信じて希望を待ち続けるよう人々を励ましています。私が現在奉仕している教会はサルバドールの貧民居住区にあり、ブラジル合同長老教会に所属。個人と社会に対する福音宣教を模索し、社会的弱者に寄り添い、他教会とのエキキュメンカルな関係の下で、人権を擁護する市民運動とも連携しつつ歩んでいます。

私は2016年からブラジルのパイア州の州都、サルバドールに在住していますが、この町はかつて百年続いた奴隷制時代のブラジルの首座であり、アフリカから連れ出されたおびただしい黒人たちが奴隷にされ、売買された歴史があります。1500年にヨーロッパ人がブラジルを発見して以来、この大地から豊かな資源を収奪し、先住民を搾取させ、アフリカ

黒人を奴隷として船使し、それら女性たちをレイプした結果生まれた混血人が人口基盤の半分を占めてブラジルの歴史を刻まれてきました。ひとりの権力者、産業者層の対策で追われていますが、大多数の貧者が同国の解決困難な社会問題の底には、長い植民地支配の負の遺産が根強く残っています。恒常的な政治の不正、腐敗、任意的な貧富の差、人種、性別、宗教などによる様々な差別があります。

にもかかわらず、苦しい民衆の抵抗力、生きよととする力、助け合う友愛の美しさに心惹きつけられ、そこに希望を見出します。彼ら、彼女のいのちと種れ合う時、奴隷の家から解放する神、抑圧に苦しむガリヤの民衆と共に生きようとするイエスの気配を感じるからです。そして実際、良心ある市民たちは、政治的逆進にもめげず、独断的な様々な手法でダイナミックに市民運動を展開しながら歩んでいます。

「奴隷状態から解放する神」は、民の叫びを聴いて必ず助け出してくださいます。イエスは死の墓から復活され、愛が死に打ち勝つことを示しておられます。私たちは、この困難の中でもう一度しっかりと福音に立ち返り、希望をもって新しい共同体の形成を祈ります。行動を起こすよう求められていると感じます。

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会計報告

2021.1.5～2021.6.30

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会費・特別献金	省 略	支援金	省 略
利息		事務費	
		込手数料	
小 計		小 計	
前月より繰越		次月へ繰越	
合 計		合 計	

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会堂建築献金	省 略	支援金	省 略
		振込手数料	
小 計		小 計	
前月繰越金		次月へ繰越	
合 計		合 計	

年会費・特別献金者名（敬称略・順不同）

2021.1.5～2021.6.30

省 略

会堂建築献金

省 略